

# 第8回広州国際電気ヒータ技術展覧会（8/21～23） 大連達泰豪化学2回目の出展



ブースでの商談

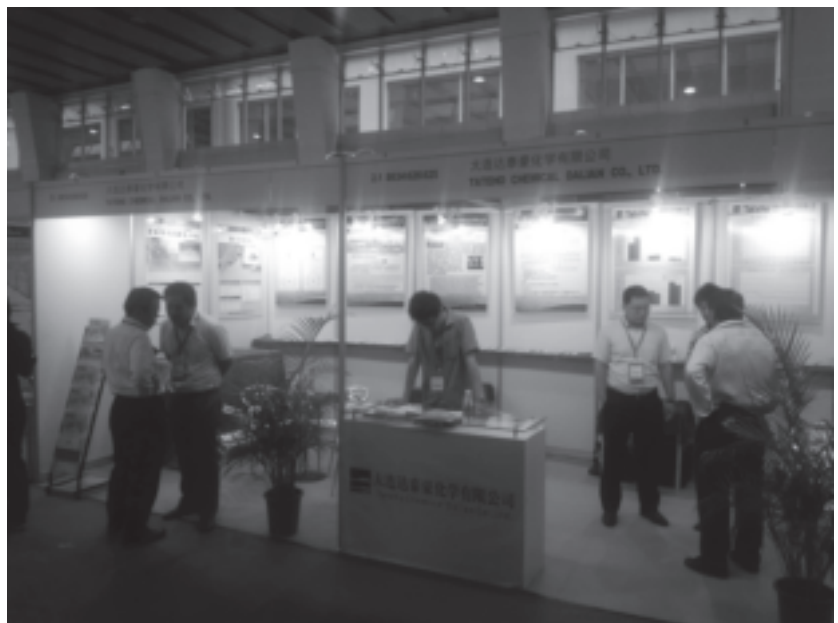
第8回広州国際電気ヒータ技術展覧会が2012年8月21日～23日に中国広州市中国進出口商品交易会琶州展館において開催され、タテホ化学工業グループ企業の大連達泰豪化学も昨年に続き2回目の出展を行った。

同展示会は、2005年から開始された、中国電熱業界、最大規模の展示会である。今回の展示総面積は3万㎡で、給湯器、太陽エネルギー関連、ボイラー、バーナー、空調、

熱交換器など約153社が出展した。大連達泰豪化学は電熱関連ブース（ブース面積約3,500㎡）に出展、マグネシアパウダー、マグネシア碍子などマグネシア関連製品を展示した。同社ブースには、中国のヒータメーカーの他、日本、台湾、インド、シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、UAE、カナダ、ブラジル、ドイツなどからユーザーが訪れ、活発な商談が行われた。

ちなみに、電熱ブースは、総面積約3,500㎡で、マグネシアパウダーメーカーとして大連達泰豪化学、大石橋嘉順、美尔镁、松遼镁業、長虹鋳業の5社がまた、タテホ化学のユーザーも数社が出展していた。なお、中国経済の鈍化傾向もあって、全般的に出展企業や参加者もやや盛況感に欠けていたらしいはあった。

中国のマグネシア市場は、安価



ブース風景

な中国製が優位を占めているが、高性能なヒータやカートリッジヒータのニーズも高まっている。今年、大連達泰豪化学は3号キルンが完成したことで生産体制が格段に整備され、価格面や納期対応も強化された。今後はタテホ化学が得意とする高絶縁、長寿命という高品質マグネシア製品を中核に据え積極的な事業展開を図っていくことになる。